実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

【科 目】	人間の尊厳と自立	【種類】	【時間】	【形態】
【開 講 時 期】		通信	5 時間	必修(※)
【目的・ねらい】	① 尊厳を支えるための専門職としての意識をもった行動がとれる。			
【到 達 目 標】	① 尊厳の保持、自立の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。			
【科 目 の 内 容】	【内 容 の 細 目】	【回数】	【担当講師】	
(1) <u>人間の尊厳と自立</u>	① 人間の尊厳と自立 (生活支援の考え方)(ノーマライゼーション - その歴史、概念、課題)(権利擁護)	(5 時間)	野澤直樹	
【使用テキスト】		【評 価 方 法】		
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第 1 巻) 長寿社会開発センター		レポート問題による添削 60 点以上で合格 (59 点以下の場合は再度、試験・評価を行う)		

※訪問介護員 2 級及び介護職員初任者研修修了者は履修免除とする

【科 目】	社会の理解 I	【種類】	【時間】	【形態】
【開 講 時 期】		通信	5 時間	必修(※)
【目的・ねらい】	① 法・制度の理解とサービスシステムの一翼を担う視点をもって業務が行える。			
【到 達 目 標】	① 介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。			
【科 目 の 内 容】	【内 容 の 細 目】	【回数】	【担当講師】	
(1) <u>介護保険制度</u>	① 介護保険制度 (介護保険制度の概要)(要介護認定とケアマネジメント) (介護サービスの種類と内容)(介護サービス事業者と施設) (介護報酬)(介護財源)(介護保険は、なぜつくられたのか)(介護保険の実施状況)	(5 時間)	増田真由美	
【使用テキスト】		【評 価 方 法】		
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第 1 巻) 長寿社会開発センター		レポート問題による添削 60 点以上で合格 (59 点以下の場合は再度、試験・評価を行う)		

※訪問介護員 2 級及び介護職員初任者研修修了者は履修免除とする

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

【科 目】	社会の理解Ⅱ	【種類】	通信	【時間】	30 時間	【形態】	必修
【開 講 時 期】							
【目的・ねらい】	① 社会と生活のしくみに対応して、専門職として適切な支援ができる。 ② 地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについて理解する。 ③ 利用者の生活を支える適正なサービス利用のあり方について、障害者総合支援法の理念や主旨に沿って考えることができ、サービスシステムの一翼を担う視点をもって業務が行える。 ④ 介護に関係するさまざまな社会保障制度について概説することができる。						
【到達目標】	① 家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。 ② 地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している。 ③ 社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得している。 ④ 障害者総合支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 ⑤ 成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。						
【科目の内容】	【内容の細目】	【回数】	【担当講師】				
(1) <u>社会と生活のしくみ</u>	社会と生活のしくみ	(2 時間)	野澤直樹 増田真由美				
(2) <u>地域共生社会の実現に向けた制度や施策</u>	地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ	(2 時間)					
(3) <u>社会保障制度</u>	社会保障制度の基本的な考え方としくみ (家族介護から社会介護へ)	(3 時間)					
(4) <u>障害者総合支援制度</u>	障害者総合支援法 (障害者総合支援法と障害福祉サービスの概要)	(3 時間)					
(5) <u>介護実践に関わる諸制度</u>	介護実践に関連する諸制度 (ア) (医療制度)	(5 時間)					
	(イ) (年金制度) (所得保障)	(5 時間)					
	(ウ) (生活保護) (児童家庭福祉)	(5 時間)					
	(エ) (住宅および居住政策) (成年後見制度)	(5 時間)					
【使用テキスト】		【評価方法】					
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第1巻) 長寿社会開発センター		レポート問題による添削 60 点以上で合格 (59 点以下の場合は再度、試験・評価を行う)					

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

【科 目】	介護の基本 I	【種類】	通信	【時間】	10 時間	【形態】	必修(※)
【開 講 時 期】							
【目的・ねらい】	① 介護福祉士制度の趣旨、教育内容等を理解したうえで、適切に業務遂行できる。 ② 利用者の生活意欲を引き出し、自立支援や介護予防の視点で介護を提供することができる。 ③ 介護職員の倫理や職務、基本的マナー等について理解し、専門的な職業人としての自覚をもって行動できる。 ④ 尊厳が損なわれた状態(虐待やそれに類する行為)を発見する視点を持ち、改善に向けた行動ができる。						
【到達目標】	① 介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を踏まえ、介護予防や看取り、災害時等における介護福祉士の役割を理解している。 ② 個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 ③ 介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。						
【科目の内容】	【内容の細目】			【回数】	【担当講師】		
(1) <u>介護福祉士の役割と機能</u>	① 介護福祉士制度とは (法的定義と役割)			(2 時間)	野澤直樹 増田真由美		
(2) <u>尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開</u>	② 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開 (尊厳を支えるケア)(ICF—概念、歴史、ICF のツールの使い方)(実践の方法)(リハビリテーションの理念、基礎)(リハビリテーション医療の過程)(リハビリテーションチーム職種との連携)(介護予防とリハビリテーション)			(3 時間)			
(3) <u>介護福祉士の倫理</u>	③ 介護福祉士の倫理 (倫理と尊厳の理解)(守秘義務・個人情報保護と活用)(情報開示)(契約とサービス)(サービス実施時の留意点)(身体拘束の禁止、虐待の防止)			(5 時間)			
【使用テキスト】				【評価方法】			
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第 2 巻) 長寿社会開発センター				レポート問題による添削 60 点以上で合格 (59 点以下の場合は再度、試験・評価を行う)			

※訪問介護員 2 級及び介護職員初任者研修修了者は履修免除とする

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

【科 目】	介護の基本Ⅱ	【種類】	通信	【時間】	20 時間	【形態】	必修
【開 講 時 期】							
【目的・ねらい】	① 生活支援を目標に、創意工夫のある取り組みを行うことができる。 ② チームの一員として、社会資源の連携・活用をしつつ、利用者・家族に対して働きかけや関わりをもつことができる。 ③ 利用者・家族のニーズを把握し、社会資源に適切につなげるために、チームの中で提案をすることができる。 ④ リスクマネジメントの概念、プロセスを理解し、利用者の安全を守り、質の高いケアを提供できる。 ⑤ 労働安全に関する法令等の知識を身につけ、介護職員としての身体的、精神的な健康を自己管理できる。						
【到達目標】	① 介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。 ② チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得している。 ③ リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得している。 ④ 介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得している。						
【科目の内容】	【内容の細目】	【回数】	【担当講師】				
(1) <u>介護を必要とする人の生活の理解と支援</u>	① 介護を必要とする人の生活の理解と支援 (生活環境の捉え方)(すべての人を対象とする地域生活支援)(地域アセスメントの技術と方法)	(5 時間) (5 時間)	野澤直樹 増田真由美				
(2) <u>介護実践における連携</u>	② 介護実践における連携 (チームケア)(連携とチームケア)	(3 時間)					
(3) <u>介護における安全の確保とリスクマネジメント</u>	③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント (リスクマネジメント).	(2 時間)					
(4) <u>介護従事者の安全</u>	④ 介護職員の健康管理と労働法規 (介護職員の健康管理)(ストレスマネジメント)(介護職員の労働の権利と制度)	(5 時間)					
【使用テキスト】		【評価方法】					
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第2巻) 長寿社会開発センター		レポート問題による添削 60 点以上で合格 (59 点以下の場合は再度、試験・評価を行う)					

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

【科 目】	コミュニケーション技術	【種類】	通信	【時間】	20 時間	【形態】	必修
【開 講 時 期】							
【目的・ねらい】	① 利用者・家族と信頼関係を築けるように、よりよいコミュニケーションをとることができるようにする。 ② より適切な援助を行うために、老年期に起こる心理的变化や障害者の心理的特徴を学習することで、高齢者への理解を深める。 ③ 特に、認知症高齢者とその利用者の心理を理解し、必要な介護を展開できる。 ④ チームマネジメントに関する知識を理解し、活用できる。						
【到達目標】	① 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を習得している。 ② 本人・家族との支援関係を構築し、意思決定を支援することができる。 ③ 利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 ④ チームマネジメントに関する知識を理解し、活用できる。 ⑤ 状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。						
【科目の内容】	【内容の細目】	【回数】	【担当講師】				
(1) <u>介護場面におけるコミュニケーション技術</u>	コミュニケーションの基本的理解 (コミュニケーションを考える)(他者を理解する・自己を理解する)(信頼関係を築くための基本的姿勢)	(5 時間)	野澤直樹				
	(適切なコミュニケーションのために一面接技術)(コミュニケーション手段の障害)(コミュニケーションと信頼関係)(相談援助とは)	(5 時間)					
(2) <u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u>	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (高齢者とその家族の心理の理解)(障害ある人とその家族の心理の理解)(こころのケアの基礎、家族支援)	(5 時間)					
(3) <u>介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション</u>	チームマネジメント(組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォロワーシップ等)の理解	(5時間)					
【使用テキスト】		【評価方法】					
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第3巻) 長寿社会開発センター		レポート問題による添削 60 点以上で合格 (59 点以下の場合は再度、試験・評価を行う)					

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

【科 目】	生活支援技術 I	【種類】	通信	【時間】	20 時間	【形態】	必修 (※)
【開 講 時 期】							
【目的・ねらい】	<ul style="list-style-type: none"> ① ICF を活用して利用者を評価し、適切な生活支援ができる。 ② ボディメカニクスについて正しく理解し、利用者に対して安全で安楽な介護を行うことができる。 ③ 基本的な生活支援技術について、理論を踏まえたうえで、それを応用して、自立支援の視点で介護を展開できる。 ④ 福祉用具、住宅改修等についての知識をもち、利用者の生活を支えるという視点から、チームのなかで助言や提案ができる。 						
【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ① 生活支援における ICF の意義と枠組みを理解している。 ② ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ③ 自立に向けた生活支援技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を習得している。 ④ 居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解している。 						
【科目の内容】	【内容の細目】	【時間】	【担当講師】				
(1) <u>生活支援とICF</u>	① 生活支援と ICF (生活支援と ICF の考え方)	(2 時間)	野澤直樹 黒川百合子				
(2) <u>ボディメカニクスの活用</u>	② ボディメカニクスの活用 (ボディメカニクスを活用した介護の原則)	(2 時間)					
(3) <u>生活支援技術の基本 (移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)</u>	③ 介護技術の基本 (介護技術の展開: 移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)	(1 時間)					
		(5 時間)					
(4) <u>環境整備、福祉用具活用等の視点</u>	④ 環境整備、福祉用具活用等の視点 (在宅生活と福祉用具・住宅改修の意義) (室内整備と清掃)(音、光、換気・空調、五感への働きかけ)(混乱や失敗を招かない環境づくり)	(5 時間)					
		(5 時間)					
【使用テキスト】		【評価方法】					
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第4巻) 長寿社会開発センター		レポート問題による添削 60 点以上で合格 (59 点以下の場合は再度、試験・評価を行う)					

※訪問介護員 2 級及び介護職員初任者研修修了者は履修免除とする

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

【科 目】	生活支援技術Ⅱ	【種類】		【時間】		【形態】	
【開 講 時 期】		通信		30 時間		必修 (※)	
【目的・ねらい】	<p>利用者の心身の状態に合わせた生活支援具術を理解し、自立支援の視点で介護を展開できる。</p> <p>① 食事の意味、基本的介護について理解し、具体的な介助方法を学習する。 ② 利用者の気持ちを理解した適切な排泄介助、また、排泄自立への援助方法を学習する。 ③ 利用者が安心して、安楽な移動、歩行の介護方法を学習する。 ④ 睡眠の質を向上させるために、環境整備の方法等を学習する。 ⑤ 清潔の効果と清潔の介護を行うときの安全について理解し、健康状態に応じた介護、満足してもらえる入浴の提供について学習する。 ⑥ 衣服の着脱の介護を行うときの留意点について理解し、健康状態に応じた介護技術について学習する。 ⑦ 福祉用具や住宅改修の具体的内容、福祉用具と住宅のユニバーサルデザインの動向などを理解する。 ⑧ 人生の最終段階における介護について、本人・家族への説明と了解を得るなど、チームの一員として対応することができる。</p>						
【到達目標】	<p>① 以下について、利用者の心身の状態に合わせた、自立に向けた生活援助技術を理解し、行うことができる。 (移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具等の活用、環境整備)</p>						
【科目の内容】	【内容の細目】	【回数】	【担当講師】				
<p><u>利用者の心身の状況に合わせた生活支援技術</u></p>	① <u>食事</u> (身体状態に応じた食事の介護)(誤嚥・脱水の予防について理解を深める)	(3 時間)	野澤直樹 黒川百合子				
	② <u>排泄</u> (排泄の基本的な介護について理解を深める)(尿失禁・便秘の介護について理解を深める)	(3 時間)					
	③ <u>移動・移乗</u> (ベッド上での移動(体位変換)を理解する)(座位・立位の方法を理解する)(肢体不自由者の歩行介助を理解する)(視覚障害者の歩行介助を理解する)	(3 時間)					
	④ <u>休息・睡眠</u> (活動と休息)(安眠への援助について理解を深める)(寝具の整え方を確認する)	(3 時間)					
	⑤ <u>入浴・清潔保持、口腔清潔</u> (入浴、シャワー浴の介護について理解する)(清拭について理解する)(熱布清拭、部分浴、陰部洗浄を理解する)(眼、耳、鼻、口腔の清潔を理解する)(頭部の清潔(洗髪)について確認する)	(3 時間)					
	⑥ <u>着脱、整容</u> (衣服の着脱時の介助を理解する)	(3 時間)					

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

	<p>⑦ <u>環境整備、福祉用具活用等の視点</u> ・福祉用具の具体的内容 (移動・移乗、起居、食事、コミュニケーション、排泄、口腔ケア、入浴、福祉用具のユニバーサルデザインについて) ・住宅改修の具体的内容 (移動・移乗、起居、食事、排泄、洗面・脱衣、入浴、住宅のユニバーサルデザインについて)</p>	(6 時間)	
	<p>⑧ <u>人生の最終段階における介護</u> (ターミナルケアの条件とチームアプローチ)(ターミナルケアにおける倫理)</p>	(6 時間)	
【使用テキスト】		【評価方法】	
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第4巻) 長寿社会開発センター		レポート問題による添削 60点以上で合格 (59点以下の場合は再度、試験・評価を行う)	

※訪問介護員2級及び介護職員初任者研修修了者は履修免除とする

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

【科 目】	介護過程 I	【種類】	通信	【時間】	20 時間	【形態】	必修 (※)
【開 講 時 期】							
【目的・ねらい】	<ul style="list-style-type: none"> ① ケアマネジメントと介護過程が車の両輪の関係にあること、それぞれが重なりつつも異なる視点であることを理解する。 ② チームケアには、多職種連携によるチームケアと、介護職同士で連携し、介護サービスを提供していくチームケアがあり、後者において重要となる介護過程の意義を理解する。 ③ チームケアにおける介護過程の重要性と、介護職の役割を理解する。 ④ 介護過程の基本視点や利用者を理解する基本姿勢を身につける。 ⑤ 介護過程の各プロセス(アセスメント、支援課題の決定、計画立案、サービス実施、評価、終結・継続・変更)についてそれぞれ理解する。 ⑥ 介護のチームにおけるコミュニケーションの重要性、記録の意義や目的を正しく理解する。 ⑦ 介護情報の公表とプライバシー保護の扱いについて正しい知識を身につける。 ⑧ 報告・連絡・相談、会議の必要性について理解する。 						
【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ① 介護過程の目的、意義、展開等を理解している。 ② 介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 ③ チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解している。 						
【科目の内容】	【内容の細目】			【回数】	【講師名】		
(1) <u>介護過程の基礎的知識</u>	① ケアマネジメントと介護過程 (介護過程とチームケア)(チームケアにおける介護職の役割)			(5 時間)	野澤直樹 黒川百合子		
(2) <u>介護過程の展開</u>	② 介護の専門性を活かした介護過程 (介護過程の理解)(介護計画におけるアセスメント)(介護計画における「課題」の明確化)(支援課題の決定) (個別介護計画の立案と実施にいたるまで)			(5 時間)			
	(個別介護計画に基づくサービス提供の実施)(個別介護計画における評価)			(5 時間)			
(3) <u>介護過程とチームアプローチ</u>	③ 介護職同士のチームケア			(5 時間)			
【使用テキスト】				【評価方法】			
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第 5 巻) 長寿社会開発センター				レポート問題による添削 60 点以上で合格 (59 点以下の場合は再度、試験・評価を行う)			

※訪問介護員 2 級及び介護職員初任者研修修了者は履修免除とする

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

【科 目】	介護過程Ⅱ	【種類】	【時間】	【形態】
【開 講 時 期】		通信	25 時間	必修
【目的・ねらい】	① 介護過程の基本的な流れをつかむ。 ② 介護過程の実際を、実践例から理解する。 ③ ケアマネジャーによるアセスメント、ケアプラン作成、各サービス計画の関係や流れを理解し、生活全体を支援するという観点から、どのような援助が必要かを考えることができる。 ④ 適切なアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行うために、基本的な観察、記録、情報伝達を行うことができる。 ⑤ 情報収集、アセスメント、介護計画立案、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。 ⑥ 適切なアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行うために、基本的な観察、記録、情報伝達を行うことができる。			
【到達目標】	① 情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。			
【科目の内容】	【内容の細目】	【回数】	【担当講師】	
(1) <u>介護過程の展開の実際</u> ① <u>利用者の状態(障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等)について事例を設定し、介護過程を展開させる。</u>	① 介護職による介護過程の実際 (介護職が展開する生活支援としての介護過程) (実践例から学ぶ介護過程)	(5 時間)	野澤直樹 黒川百合子	
(2) <u>介護過程の展開の実際</u> ② <u>観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等についても考察させる。</u>	② ケアマネジャーによるケアマネジメントと介護保険サービス —介護を含めた総合的支援 (ケアプランとサービス計画に関する基礎的理解) (居宅サービス計画・各サービス計画(訪問介護計画、通所介護計画等)とサービスの関係)	(5 時間)		
	③ ケアマネジャーによるケアマネジメント過程の展開 (アセスメントとニーズの把握) (居宅ケアプランの作成)	(5 時間)		
	(各サービス計画——訪問介護計画、通所介護計画) (ケアプラン・サービス計画に基づいたモニタリングと記録)	(5 時間)		
【使用テキスト】		【評価方法】		
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第5巻) 長寿社会開発センター		レポート問題による添削 60点以上で合格 (59点以下の場合は再度、試験・評価を行う)		

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

【科 目】	介護過程Ⅲ	【種類】	【時間】	【形態】
【開 講 時 期】		演習・実技	45 時間	通学) (必修)
【目的・ねらい】	① 「利用者主体」の介護サービスを提供するために、利用者個々人の残存機能を活かした介護過程の方法を学習する。 ② 心身機能の低下に沿った介護方法の事例や理論を踏まえたうえで、それを応用して、自立支援の視点で介護を展開できる。 ③ 介護技術の原理原則の習得・実践と共に、知識や技術を総合的に活用した判断力・応用力を評価する。			
【到達目標】	① 実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。 ② 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、体系的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等)を提供できる。 ③ 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。 ④ 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。			
【科目の内容】	【内容の細目】	【回数】	【担当講師】	
<u>(1) 介護過程の展開の実際</u> <u>① 多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価する。</u>	① 介護職による介護過程の事例と評価 (介護過程を展開する基本視点)(事例検討)	(5 時間)	野澤直樹	
	② 食事 (身体状態に応じた食事の介護)(誤嚥・脱水の予防について理解を深める)	(5 時間)		
	③ 排泄 (排泄の基本的な介護について理解を深める)(尿失禁・便秘の介護について理解を深める)	(5 時間)		
<u>(1) 介護過程の展開の実際</u> <u>② 多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価する。</u>	④ 移動・移乗 (ベッド上での移動(体位変換)を理解する)(座位・立位の方法を理解する)(肢体不自由者の歩行介助を理解する)(視覚障害者の歩行介助を理解する)	(5 時間)		
	⑤ 睡眠 (安眠への援助について理解を深める)(寝具の整え方を確認する)	(5 時間)		
	⑥ 着脱、整容 (衣服の着脱時の介助を理解する)			
	⑦ 入浴・清潔保持、口腔清潔 (入浴、シャワー浴の介護について理解する)(清拭について理解する)(熱布清拭、部分浴、陰部洗浄を理解する)(眼、耳、鼻、口腔の清潔を理解する)(頭部の清潔(洗髪)について確認する)	(5 時間)		
<u>(2) 介護技術の評価</u> <u>介護技術の原理原則の習得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力、応用力を評価する。</u>	⑧ 介護技術の評価 (実技試験の出題基準と共通留意事項)(事例 1)	(5 時間)		
	(事例 2、3)	(5 時間)		
	(事例 4、5)	(5 時間)		
【使用テキスト】		【評価方法】		
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第 5 巻) 長寿社会開発センター		レポート問題による添削 60 点以上で合格 (59 点以下の場合は再度、試験・評価を行う)		

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

【科 目】	こころとからだのしくみ I	【種類】	【時間】	【形態】
【開 講 時 期】		通信	20 時間	必修 (※)
【目的・ねらい】	介護に関係した身体のしくみの基本的な理解 ① 身じたくの意義、関連する心身のしくみを理解し、利用者の変化に応じた対応ができる。 ② 移動のもつ意義、役割、関連する心身のしくみを理解し、利用者の変化に応じた対応ができる。 ③ 食事のもつ意義、関連する心身のしくみを理解し、利用者の変化に応じた対応ができる。 ④ からだを清潔に保つ意義、関連する心身のしくみを理解し、利用者の変化に応じた対応ができる。 ⑤ 排泄という行為のもつ意味、関連する心身のしくみを理解し、利用者の変化に応じた対応ができる。 ⑥ 睡眠のもつ意味、関連する心身のしくみを理解し、利用者の変化に応じた対応ができる。			
【到達目標】	① 介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を習得している。			
【科目の内容】	【内容の細目】	【回数】	【担当講師】	
(1) <u>介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解</u> (移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等)	① 身じたく(着脱・整容・口腔)に関連したしくみ(身じたくのしくみ)(心身機能低下が身じたくに及ぼす影響)	(5 時間)	野澤直樹	
	② 移動に関連したしくみ(移動のしくみ)(心身機能低下が移動・移乗に及ぼす影響)			
	③ 食事に関連したしくみ(食事行為のしくみ)(心身機能低下が食事に及ぼす影響)	(5 時間)		
	④ 入浴・清潔保持に関連したしくみ(入浴・清潔保持のしくみ)(心身機能低下が清潔保持に及ぼす影響)	(5 時間)		
	⑤ 排泄に関連したしくみ(排泄のしくみ)(心身機能低下が排泄に及ぼす影響)	(5 時間)		
	⑥ 休息・睡眠に関連したしくみ(休息・安眠の介助にあたって)(睡眠のしくみ)(心身機能低下が睡眠に及ぼす影響)			
【使用テキスト】		【評価方法】		
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第 8 巻) 長寿社会開発センター		レポート問題による添削 60 点以上で合格 (59 点以下の場合は再度、試験・評価を行う)		

※訪問介護員 2 級及び介護職員初任者研修修了者は履修免除とする

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

【科 目】	こころとからだのしくみⅡ	【種類】	通信	【時間】	60 時間	【形態】	必修
【開 講 時 期】							
【目的・ねらい】	<p>介護を必要としている人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる心身の構造や機能を理解する。</p> <p>① 人間の欲求について理解し、利用者の自己実現をめざした支援ができる。 ② 介護職員として、各介護項目における医療的側面のアセスメントができる(疾病と症状、障害、感染症の内容を含む) ③ からだのしくみ、疾患についての基礎的な医学知識を活用して適切な支援が行える。 ④ 身じたくの意義、関連する心身のしくみを理解し、利用者の変化に応じた対応ができる。 ⑤ 移動のもつ意義、役割、関連する心身のしくみを理解し、利用者の変化に応じた対応ができる ⑥ 食事のもつ意義、関連する心身のしくみを理解し、利用者の変化に応じた対応ができる。 ⑦ からだを清潔に保つ意義、関連する心身のしくみを理解し、利用者の変化に応じた対応ができる。 ⑧ 排泄という行為のもつ意味、関連する心身のしくみを理解し、利用者の変化に応じた対応ができる。 ⑨ 睡眠のもつ意味、関連する心身のしくみを理解し、利用者の変化に応じた対応ができる。 ⑩ 終末期にある人の心理過程に寄り添うことができ、各種専門職と協力して「よりよい死」にむけて援助できる。</p>						
【到達目標】	<p>① 人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得している。 ② 生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得している。 ③ 身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。</p>						
【科目の内容】	【内容の細目】	【回数】	【担当講師】				
(1) <u>人間の心理</u>	① 人間の心理 (人間の欲求と自己実現)	(5 時間)	大澤栄子 野澤直樹				
	(こころのしくみの基礎)	(5 時間)					
(2) <u>人体の構造と機能</u>	② 人体の構造と機能——疾患との関わり (生活習慣病の理解)	(5 時間)	大澤栄子				
	(高血圧と糖尿病)	(5 時間)					
	(筋骨格系疾患)(口腔疾患)(眼科疾患)	(5 時間)					
	(皮膚科疾患—高齢者の皮膚とスキンケア)(呼吸器疾患)(泌尿器疾患)	(5 時間)					
	(神経系疾患)(精神疾患)(介護保険制度における特定疾病の概要)	(5 時間)					

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

	③ 高齢者に多い病気とからだのしくみ (高齢者の代表的な疾患)	(5 時間)	
(3) <u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点</u> ・移動・移乗 ・食事 ・入浴・清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、口腔清潔 ・休息・睡眠 ・人生の最終段階における介護	④ 身じたく(着脱・整容・口腔)に関連したしくみ (身じたくにおける変化の気づきと対応)	(5 時間)	野澤直樹 大澤栄子
	⑤ 移動に関連したしくみ (移動における変化の気づきと対応)		
	⑥ 食事に関連したしくみ (食事における変化の気づきと対応)	(5 時間)	
	⑦ 入浴・清潔保持に関連したしくみ (入浴・清潔保持における変化の気づきと対応)		
	⑧ 排泄に関連したしくみ (排泄における変化の気づきと対応)		
	⑨ 休息・睡眠に関連したしくみ (休息・睡眠における変化の気づきと対応)	(5 時間)	
	⑩ 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ (「死」を理解する)(終末期から危篤時、死亡時のからだの理解)		
(死に対するところの理解)(医療職との連携)	(5 時間)		
【使用テキスト】	【評価方法】		
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第8巻) 長寿社会開発センター	レポート問題による添削 60点以上で合格 (59点以下の場合は再度、試験・評価を行う)		

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

【科 目】	発達と老化の理解 I	【種類】	【時間】	【形態】
【開 講 時 期】		通信	10 時間	必修
【目的・ねらい】	① 介護職員として、各介護項目における医療的側面のアセスメントができる(疾病と症状、障害、感染症の内容を含むこと)。			
【到達目標】	① 老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ② 老化に伴う身体機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。			
【科目の内容】	【内容の細目】	【回数】	【担当講師】	
(1) <u>老化に伴う心の変化と日常生活への影響</u>	① 老化に伴うこころの変化 (加齢の生理学——高齢者の精神的特徴と睡眠)(老化に伴う精神・心理機能の変化と日常生活への影響)	(5 時間)	野澤直樹 大澤栄子	
(2) <u>老化に伴うからだの変化と日常生活への影響</u>	② 老化に伴うからだの変化 (加齢の生理学——高齢者の身体的特徴と睡眠)(老化に伴う身体的変化と日常生活への影響)	(5 時間)		
【使用テキスト】		【評価方法】		
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第 1 巻) 長寿社会開発センター		レポート問題による添削 60 点以上で合格 (59 点以下の場合は再度、試験・評価を行う)		

【科 目】	発達と老化の理解 II	【種類】	【時間】	【形態】
【開 講 時 期】	令和 4 年 4 月～令和 4 年 10 月	通信	20 時間	必修
【目的・ねらい】	① 生涯発達、老化などについて正しい知識をもち、専門職として適切な支援ができる。 ② 高齢者に多い疾病・障害などについて概説でき、その特徴をふまえて適切な支援ができる。			
【到達目標】	① ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 ② 老年期の発達課題、心理的な課題(老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。 ③ 高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。			
【科目の内容】	【内容の細目】	【回数】	【担当講師】	
(1) <u>人間の成長・発達</u>	① 老年期の発達・成熟と心理 (人間の成長・発達の理解)	(2 時間)	野澤直樹 黒川百合子	
(2) <u>老年期の発達・成熟と心理</u>	② 老年期の発達・成熟と心理 (老化とは)(老年期の発達課題)(高齢者の心理的課題と支援の留意点)	(3 時間)		
(3) <u>高齢者に多い症状・疾病等と留意点</u>	③ 高齢者に多い症状・疾病等と留意点 (高齢者の疾病と食事・栄養管理)(健康チェックとバイタルサイン)	(5 時間)	大澤栄子	
	(感染症の種類と特徴)(高齢者に起こりやすい感染症)	(5 時間)		
	(呼吸器症状と食中毒等の疾病)(その他の訴え・症状と疾病)	(5 時間)		
【使用テキスト】		【評価方法】		
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第 6 巻) 長寿社会開発センター		レポート問題による添削 60 点以上で合格 (59 点以下の場合は再度、試験・評価を行う)		

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

【科 目】	認知症の理解 I	【種類】	通信	【時間】	10 時間	【形態】	必修 (※)
【開 講 時 期】							
【目的・ねらい】	① 認知症の障害や行動を踏まえ、常に心身の状態の観察や行動を見守り、適切に対応することができる。 ② 認知症の障害や特徴を踏まえ、認知症高齢者が構築している認知的世界を理解し、安定した状態で過ごせるように介護を提供する。						
【到達目標】	① 認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 ② 認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ③ 認知症の人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。						
【科目の内容】	【内容の細目】			【回数】	【担当講師】		
(1) <u>認知症ケアの理念</u>	① 認知症ケアの理念 (認知症介護の基本と必要な観察・見守り)			(2 時間)	黒川百合子 野澤直樹		
(2) <u>認知症による生活障害、心理・行動の特徴</u>	② 認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴と支援の基本 (認知症高齢者の心理的特徴)			(3 時間)			
	③ 認知症による生活障害、心理・行動の特徴と支援の基本 (認知症の症状と障害の考え方)						
(3) <u>認知症の人や家族へのかかわり・支援の基本</u>	認知症の人や家族への支援の実際 (在宅認知症高齢者をかかえる家族の理解)(認知症高齢者の家族へのケア)			(5 時間)			
【使用テキスト】				【評価方法】			
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第6巻) 長寿社会開発センター				レポート問題による添削 60点以上で合格 (59点以下の場合は再度、試験・評価を行う)			

※訪問介護員 2 級及び介護職員初任者研修修了者は履修免除とする

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

【科 目】	認知症の理解Ⅱ	【種類】	通信	【時間】	20 時間	【形態】	必修
【開 講 時 期】							
【目的・ねらい】	① 認知症の利用者がもつ生活機能を積極的に見出して、その機能を発揮できるよう支援し、尊厳を保持する。 ② 認知症の医学的背景を理解したうえで、介護の専門職として、認知症の利用者の行動、生活状況を的確に把握することができる。 ③ 認知症利用者の家族の負担を理解し、適切に対応できる。						
【到達目標】	① 代表的な認知症(若年性認知症を含む)の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 ② 認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念に基づいた支援ができる。 ③ 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。						
【科目の内容】	【内容の細目】	【回数】	【講師名】				
(1) <u>医学的側面から見た認知症の理解</u>	① 医学的側面からみた認知症の理解 (認知症とは一年齢相応の物忘れと疾患としての認知症の区別)	(5 時間)	野澤直樹 黒川百合子				
	②(認知症の中核症状と周辺症状)(認知症を引き起こす原因疾患と発生誘因——脳血管性認知症とアルツハイマー型認知症)	(5 時間)					
(2) <u>認知症の人への支援の実際</u>	認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援	(5 時間)					
	③認知症ケアにおける地域のサポート体制 (社会資源の活用)(認知症介護と医療・保健・福祉サービス)	(5 時間)					
【使用テキスト】		【評価方法】					
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第6巻) 長寿社会開発センター		レポート問題による添削 60 点以上で合格 (59 点以下の場合は再度、試験・評価を行う)					

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

【科 目】	障害の理解 I	【種類】	通信	【時間】	10 時間	【形態】	必修 (※)
【開 講 時 期】							
【目的・ねらい】	① サービスの種類、相談窓口、サービス利用の流れがわかり、利用者に正確に情報提供、助言などが行える。 ② 法・制度の理解とサービスシステムの一翼を担う視点をもって業務が行える。 ③ 利用者の生活を支える適正なサービス利用のあり方について、制度の理念や主旨に沿って考えることができ、利用者や家族の理解を得ることができる。 ④ より適切な援助を行うために、ライフステージの各期に起こる心理的变化や障害のある人の心理的特徴を学習することで、障害のある人への理解を深める。						
【到達目標】	① 障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 ② 障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ③ 障害のある人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。						
【科目の内容】	【内容の細目】			【回数】	【担当講師】		
(1) <u>障害者福祉の理念</u>	① 障害者福祉の理念 (障害者福祉制度・施策の背景と動向、障害者理解の課題)			(5 時間)	野澤直樹 黒川百合子		
(2) <u>障害による生活障害、心理・行動の特徴</u>	② 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (障害のある人とその家族の心理の理解)(こころのケアの基礎)			(3 時間)			
(3) <u>障害のある人や家族へのかかわり・支援の基本</u>	③ 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (家族支援)			(2 時間)			
【使用テキスト】				【評価方法】			
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第7巻) 長寿社会開発センター				レポート問題による添削 60 点以上で合格 (59 点以下の場合は再度、試験・評価を行う)			

※訪問介護員 2 級及び介護職員初任者研修修了者は履修免除とする

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

【科 目】	障害の理解Ⅱ	【種類】	通信	【時間】	20 時間	【形態】	必修
【開 講 時 期】							
【目的・ねらい】	① 介護職員として、各介護項目における医療的側面のアセスメントができる(疾病と症状、障害、感染症の内容を含むこと)。 ② アセスメントの結果に基づいて、ケアプラン・サービス計画を確認でき、個別の介護方法に展開できる。 ③ 障害(児)者福祉の理念について概説でき、理念に沿った支援ができる。						
【到達目標】	① 様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。 ② 障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 ③ 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。						
【科目の内容】	【内容の細目】			【回数】	【講師名】		
(1) <u>医学的側面からみた障害の理解</u>	① 医学的側面からみた障害の理解 (身体障害)(知的障害)			(5 時間)	野澤直樹 大澤栄子		
	(精神障害)(その他の障害)			(5 時間)			
	(難病対策)(疾病・障害の受容)5			(5 時間)			
(2) <u>障害の特性に応じた支援の実際</u>	② 障害のある人への支援の実際 (障害(児)者福祉の理念)(障害(児)者の支援方法)			(5 時間)			
【使用テキスト】				【評価方法】			
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第7巻) 長寿社会開発センター				レポート問題による添削 60点以上で合格 (59点以下の場合は再度、試験・評価を行う)			

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

【科 目】	医療的ケア	【種類】	【時間】	【形態】
【開 講 時 期】		講義	50 時間(必修)	通学
【目的・ねらい】	① 医療行為の提供に関わる安全のための考え方、安全管理体制等についての知識を身につける。 ② 感染予防の基礎知識を身につけ、正しい清潔保持を実施できる。 ③ 喀痰吸引についての基礎知識を身につける。 ④ たんの吸引の手順を理解し、適切に実践できる。 ⑤ 経管栄養についての基礎知識を身につける。 ⑥ 経管栄養の実践に必要な知識や技術を身につける。 ⑦ 人間の多様性を理解し、医療倫理を遵守しつつ、その人にふさわしい支援ができる。 ⑧ 医療的ケアを担っていく一員として必要な法律を学び、他職種との連携がスムーズにできるようになる。			
【到達目標】	① 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。			
【科目の内容】	【内容の細目】	【回数】	【担当講師】	
(1) <u>医療的ケア実施の基礎</u>	① 安全な療養生活 (たんの吸引や経管栄養の安全な実施)(救急蘇生法)(健康状態の把握)(口腔内吸引の基礎知識)	(5 時間)	大澤栄子	
	② 清潔保持と感染予防 (感染予防)(介護職員の感染予防)(療養環境の清潔と消毒法)			
	③ 人間の尊厳と医療の倫理 (個人の尊厳と自立を支える介護)(医療者に求められる倫理)	(5 時間)		
	④ 医療・介護関連法規とチーム医療 (医療・介護に関する制度)(医療行為に関わる法律と解釈)(チーム医療と介護職との連携)			
(2) <u>喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)</u>	⑤ 高齢者および障害(児)者の「たんの吸引」概論 (呼吸のしくみと機能)(呼吸状態に変化が起こるのはなぜか)(たんの吸引とは)(人工呼吸器と吸引)	(5 時間)	大澤栄子	
	(小児の吸引)(吸引を受ける利用者や家族の気持ち、説明と同意)(たんの吸引に関わる呼吸器系の感染と予防)(たんの吸引により生じるトラブルとインシデント報告)(急変・事故発生時の対応と対策)	(5 時間)		
	⑥ 「たんの吸引」の実践 (たんの吸引実施の流れ)(たんの吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持)(たんの吸引の実践)	(5 時間)		
	(吸引の手順と評価)(たんの吸引に伴うケア)(報告と記録)	(5 時間)		

実務者研修課程授業概要

実施機関名：瀬麗抜教育研究アカデミー

(3) <u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)</u>	⑦ 高齢者および障害(児)者の「経管栄養」概論 (消化器系のしくみと働き)(消化器のさまざまな症状)(経管栄養法とは)(注入する内容に関する知識)	(5 時間)	
	(経管栄養を行う際の留意点)(小児の経管栄養)(経管栄養に関係する感染と予防)(経管栄養を受ける利用者や家族の気持ち)(経管栄養に伴う危険のサインと対応)	(5 時間)	
	⑧ 「経管栄養」の実践 (経管栄養実施の流れ)(経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持)(経管栄養の実践)	(5 時間)	
	(経管栄養の手順と評価)(経管栄養に必要なケア)(報告と記録)	(5 時間)	
【使用テキスト】		【評価方法】	
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第9巻) 長寿社会開発センター		演習(喀痰吸引・経管栄養)及び小テストの合格により科目の修了認定とする。 (合格基準に満たない場合は再度、試験・評価を行う)	

【科 目】	医療的ケア(演習)	【種類】	【時間】	【形態】
【開 講 時 期】		演習	12 時間(必修)	通学
【目的・ねらい】	① 医療行為の提供に関わる安全のための考え方、安全管理体制等についての知識を身につける。 ② 感染予防の基礎知識を身につけ、正しい清潔保持を実施できる。 ③ 喀痰吸引についての基礎的知識を身につける。 ④ たんの吸引の手順を理解し、適切に実践できる。 ⑤ 経管栄養についての基礎知識を身につける。 ⑥ 経管栄養の実践に必要な知識や技術を身につける。 ⑦ 人間の多様性を理解し、医療倫理を遵守しつつ、その人にふさわしい支援ができる。 ⑧ 医療的ケアを担っていく一員として必要な法律を学び、他職種との連携がスムーズにできるようになる。			
【到達目標】	① 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。			
【科目の内容】	【内容の細目】	【回数】	【担当講師】	
(1) <u>医療的ケア演習</u>	① 喀痰吸引 (口腔5回以上、鼻腔5回以上、気管カニューレ内部5回以上)	2回 (5 時間)	大澤栄子 ※2 班に分けて実施	
	② 経管栄養 (胃ろう又は腸ろう5回以上、経鼻経管栄養5回以上)	2回 (5 時間)		
	③ 救急蘇生法演習 (1 回以上)	1 回 (2 時間)		
【使用テキスト】		【評価方法】		
介護福祉士養成 実務者研修テキスト(第9巻) 長寿社会開発センター		演習(喀痰吸引・経管栄養)及び小テストの合格により科目の修了認定とする。 (合格基準に満たない場合は再度、試験・評価を行う)		